

「お客様・社会のお役に立つ」を
全ての考え・行動の起点に、
サステナブルな社会の実現に向け
前進していきます。



代表取締役社長

小曾 聡

1.はじめに

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復をお祈り申し上げます。また、医療関係者の方々、および様々なライフラインを支えるために日々ご尽力されている皆さまに、心からの感謝と敬意を表します。

2.日野を取り巻く環境と目指す姿

自動車産業は、CASE技術に代表される100年に一度の大変革期の真っ只中にあり、トラック・バスも例外ではありません。CO₂をはじめとする温暖化ガス排出による気候変動や少子高齢化による労働力不足など、物流・人流にまつわる社会課題は年々深刻化・複雑化しています。他方、2019年度末から続くコロナ禍で様々な社会活動や個人の行動が制限される中、物流・人流の重要性が改めて認識されました。

私たちは「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」という使命のもと、創業以来トラック・バスを通じてお客様と社会に日野ならではの価値を提供してまいりました。そして2018年、お客様・社会の課題解決を行う会社への事業構造変革を目指して、中長期経営戦略『Challenge2025』を策定しました。『Challenge2025』では、「交通死亡事故ゼロ」「CO₂排出量の大幅削減」「お客様ビジネスの発展支援」「人流・物流の更なる効率化」の4つの価値提供に向けて、「安全・環境技術を追求した最適商品」「最高にカスタマイズされたトータルサポート」「新たな領域へのチャレンジ」という3つの方向性の取組みを進めています。

昨年は、コロナ禍の厳しい環境下においても、この『Challenge2025』の取組みを更に加速・深化させ、「質の成長」をより確実にするための構造改革に着手しました。そして、2025年に『Challenge2025』を実現し、その先にはCASE技術を活用した持続可能な物流・人流に貢献する次世代「商用モビリティ」を提供し、将来に亘ってお客様や社会に必要とされ続ける存在を目指します。

 『Challenge2025』
(2018年10月公表「2025年に向けて」)はこちら

会社情報

トップ
メッセージHINO
基本理念サステナブルな
社会の実現に
向けて日野の
環境経営SDGsと
日野の戦略・
取り組みCSR
マネジメント

トピック

ESGの取り組み

環境 | 社会 | 企業統治 | ESGデータ集・その他

3.日野の環境経営 ～カーボンニュートラル実現に向けて

今、世界では気候変動を引き起こす地球温暖化を抑制するため、カーボンニュートラル実現に向けた取組みが急速に進展しています。

日野自動車は、2017年に策定した『日野環境チャレンジ2050』の中で環境負荷ゼロへのチャレンジを宣言し、真正面から地球環境問題に取り組んできました。掲げた目標は非常に高いですが、開発、生産、物流などのあらゆる分野でチーム日野一丸となって技術革新にチャレンジしています。

さらに本年4月には、中間目標となる「日野環境マイルストーン2030」を策定し、この取組みを一層加速させてまいります。

自動車におけるカーボンニュートラルを実現するには、部品や素材を作る段階から廃棄・リサイクルまでの車両のライフサイクル全体でCO₂排出量削減を考えなければなりません。そのためには、国や地域のエネルギー事情を踏まえることや、輸送をより効率化することなども非常に大切になります。

また、走行時のCO₂排出量低減はカーボンニュートラル実現に多大な寄与が期待できますが、それには車両を電動化するだけでは不十分です。例えば、電動車のバッテリーに充電する電気の発電や燃料電池車に使用する水素の生成においてもCO₂が排出されており、これらの低減も必要となります。さらに、お客様のビジネスに貢献するためには、使い勝手がよくコスト競争力がある商品・サービスをご提供し、効率的に安心して使っていただくことも大切です。

私たちは、「環境技術は普及してこそ社会に貢献できる」との想いのもと、『日野環境チャレンジ2050』で掲げた目標に全力で取り組むことはもちろん、各国政府、行政、関連業界、自動車工業会とも積極的に連携して、カーボンニュートラル実現に向けたあらゆる方策を追求してまいります。

4.仲間とともにチャレンジ

物流・人流の現場が抱える輸送効率の低下やドライバー不足等の課題を解決するには日野自動車だけの力で

は限界があります。そこで、トヨタグループでの協業を柱としつつ、TRATONグループやBYDなど国境を超えて志を同じくする仲間と様々な連携をしまいにしました。仲間と手を携え互いの強みを生かせば、課題を解決できる可能性は高まります。

そのような考えのもと、2018年6月に幹線輸送の効率化・省人化を目指して立ち上げた「NEXT Logistics Japan(ネクスト・ロジスティクス・ジャパン)株式会社」の取組みには、様々な業界のリーディングカンパニーにご賛同いただき、従来比で運送人員を1/2に、CO₂排出量の32%削減を実現することができました。

本年3月には、CASEの社会実装・普及に向けたスピードを加速し、輸送現場の課題解決やカーボンニュートラル実現に貢献することを目指し、いすゞ自動車、トヨタ自動車などとの新たな協業にも取り組むことといたしました。CASE技術普及に向け、インフラ整備と連携して導入を進めやすいのが走行距離や走行ルートが決まっている商用車です。私たちの商用事業基盤にトヨタ自動車のCASE技術を組み合わせ、もっとお客様や社会のお役に立てるよう力をあわせてまいります。

5.サステナブルな社会の実現に向けて

将来に亘り住み続けられる地球環境やあらゆる人々が豊かな生活を送り続けるサステナブルな社会は、誰もが等しく求める姿であり、人類共通の目標です。日野自動車は90を超える国・地域で事業を行っており、各国・各地域のお客様や社会が抱える物流・人流の課題に真摯に向き合い、SDGsが目指すサステナブルな社会の実現に貢献したいと考えています。

日野自動車は『Challenge2025』の実現を通じて、トラック・バスの製造販売・保守整備を主体とした事業を基盤に、お客様・社会の課題を共に解決する会社に生まれ変わろうとしています。その実現に向け構造改革を着実に進めて「質の成長」を実現するとともに、それを実行する人材の育成にも今まで以上に注力していきます。

この変革の時こそ、「お客様・社会のお役に立つ」を全ての考え・行動の起点に、「チームHINO」が一丸となり、志を同じくする仲間と共に、一つ一つ課題に向き合い、挑戦し、お客様に寄り添って、サステナブルな社会の実現に向け前進していきます。